

メキシコ海外実践教育プログラムに参加して

工学部社会開発システム工学科 4年

大竹智子

私がメキシコ海外実践教育プログラムに参加しようと思った理由は、日本以外の国での生活を体験してみたい、今の自分を変えたいと思ったからです。今までの自分は、決められたことを黙々とこなして、周りの人と同じように生活するという日々でした。人と違うことがしたいと思いながらもなかなか勇気が出ませんでした。どうしたら自分を変えることができるのか悩んでいると、学科の先輩からこのメキシコ海外教育プログラムのことを聞き、留学という道を知りました。海外に行くことは以前から興味がありましたが、今まで一度も行ったことがなく、正直不安が大きかったです。大学4年生ということもあり、卒業研究と両立することができるのか、私にはいきなりすぎるのではないかと何度も悩みました。それでもメキシコに行こうと決めたのは、今の自分を変えるためのいい機会だと感じたからです。今思えば無謀な挑戦で、帰国後の卒業研究は今までにないほどの苦痛でした。それでも、人間窮地に立たされると出来るものですね。無事に終わりました（終わらせました）。

メキシコの言語であるスペイン語は私にとって初めての言語で、全くの初心者からのスタートでした。英語にも自信がなく、プログラム初日から挫折しそうになりました。それでもこうして乗り越えられたのは、仲間がいたからだと思います。周りの日本人学生が英語やスペイン語を話しているのを見て、私もメキシコ人と話せるようになりたいと思うようになり、必死に食らいついていきました。日本語が通じない中で生活は大変でしたが、自分の想いが通じたときの喜びは大きかったです。これがきっかけで、語学をもっと勉強しようと思いました。少しずつでも話せる語彙を増やし、実際に会話で使ってみる。この繰り返しが大切だとメキシコの生活の中で感じました。変な英語でも、言葉に詰まっても、メキシコの先生や学生はちゃんと聞いてくれます。勇気を出して話をしたことで、プログラム最後の方ではメキシコ人の友達と楽しく話すことができるようになりました。あきらめなくてよかったです。

海外で鳥大の先生方の研修を受けるという不思議な体験をしました。工学部、医学部、農学部、地域学部と様々な分野の先生方から教わりました。知っていることも知らなかったことも、日本とは違った環境で教わることでとても勉強になりました。フィールドワークということで1日中動きまわることが多く、山を登ったり、泳いだり…体力的に辛かったです。今となっては良い思い出ばかりです。



先にも書いたように、私は卒業研究を抱えたまま海外に行きました。出来ることはやってメキシコに行きましたが、行った後もメールで研究室の先生と連絡をとり、帰国後の計画を立てていきました。工学部の場合、中間発表が11月と研修中にあり、いろいろと大変でした。日本との時差で夜に連絡をとり当日の打ち合わせをしたり、徹夜で資料を作成したり…当日はスカイプで発表したり…今思えばよく出来たなぁと自分でも驚きです。研修では英語が理解できなくて焦り、夜は先生

からの計画書添削を見て落ち込むという日々が続き、精神的にズタズタにされましたが乗り越えられたことで自信がついたように思います。

この研修で多くの人と関わったことで、コミュニケーションの難しさ、楽しさを学びました。そして、いつもと違う環境に自分を置くことで変わることができること、自分からアクションを起こすことが大切だということを学びました。もし、留学を迷っている人がいれば、勇気を出して行くことをお勧めします。確かに辛いことは多いです。でも、一歩踏み出すことで大きく変わるし、経験は自分の力になってくれると思います。

今回のメキシコプログラムは自分への挑戦であり、今までの自分を変える良い機会でした。メキシコの生活では初めてのことばかりで、辛くて逃げたいと毎日のように思っていました。乗り越えた今は行ってよかったと思います。

